学 校 番 号

73

令和5年度 学校評価書（計画段階・実施段階）

福岡県立ありあけ新世高等学校（定時制課程）

自己評価

学校運営計画（４月）			評価（総合）
学校運営方針	個に応じたきめ細かな生徒指導、教科指導および様々な学校行事を通して、「基礎的な学力」、「体力」、「豊かな心」をバランスよく育てる。また、自ら考え、他者と協働することにより問題を解決していくことのできる能力を育成するとともに、進路指導やキャリア教育の充実をはかり、社会に出ても努力を続け、主体的に物事を判断し、自らの人生を切り拓く人材を育成するとともに郷土や日本の歴史、文化等について考えを深め、多様性を認めることのできる「ふくおか未来人財」を育成する。		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
○成果 1　基本的生活習慣の確立及び安心して学ぶことのできる環境づくり 2　生徒会及び部活動の活性化 3　校内研修の充実 ○課題 1　自分の居場所を自ら切り拓く能力を育成する。 2　良好な人間関係を構築できる力を育成する。 3　新しい学びの形や自主的に学ぶ姿勢を構築する。 4　就業に対する意識を改革させる。	(1)基本的生活習慣を確立し、ルールやマナーを守る態度および思いやりの心などの道徳性を身につけ、社会に自分の居場所を自ら作ることができる生徒を育成する。	① 授業および学校行事を通して、他者と協働して問題解決にあたり、根気や耐える力を身につけるなど、卒業後、社会人として生きていく資質を養う。 ② ホームルームにおける集団指導や様々な場面における個別指導の中で、自己管理能力やリーダーシップを育成する機会をつくる。 ③ 集団の中で、ルールやマナーを守ること、相手を思いやり、お互いに高め合う場面を設定する。	
	(2)人権に対する意識とコミュニケーション能力を高め、良好な人間関係を構築できる力を育成する。	① 人権に対する正しい知識と、人権感覚を高める機会をつくる。 ② 学校行事や生徒会活動の内容充実をはかることで、生徒の主体性を高めるとともに、集団としての一体感や学校への帰属意識を育む。 ③ お互いを尊重し合う良好な人間関係を築かせ、いじめのない学校づくりを推進する。	
	(3)確かな学力を育成するために、授業の充実を図る。	① 一定の授業規律の中で、生徒が達成感、成就感を経験できる環境をデザインし、積極的な学び手への転換を促す。 ② 教材の精選や指導と評価の一体化により、学習意欲を高め、基礎学力の定着と向上を図る。 ③ ICTの活用やアクティブラーニング等の手法を取り入れた授業デザインに努め、生徒の自信につながる指導の個別化を図る。	
	(4)生徒が主体的に物事を判断できる場の充実とキャリア教育の推進を図る。	① 卒業後、自ら人生を切り拓くことができるよう、主体的判断の機会を多く設ける。 ② 外部講師による進路講演会等を通じて、進路選択に対する動機づけを行う。 ③ 卒業予定者全員の進路実現を図る。	
	(5)閉課程に向け、生徒が誇りをもって、卒業できるよう学校づくりを推進する。	① 授業や学校行事の内容を工夫し、学校への帰属意識を高める。 ② 生徒数の減少を見据え、生徒一人ひとりの存在を大切にする。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	教務部	実社会に必要となる確かな学力が身につくよう、個別指導に力点をおく。	興味関心をうながす授業改善と、授業におけるＩＣＴの利用を70%以上の教職員が行う。	A	A	A	○一部の非常勤講師を除き，教師全員が何らかの形でＩＣＴを利用した授業を進め，特に電子黒板，Googleclassroomを利用した学習活動が展開できた。新規導入のロイロノートも活用されている。個別指導が実を結び，今年度補講対象者は１人もいない。 ○主体的で対話的で深い学びの定着とともに，「総合的な探究の時間」最終発表をはじめ，教育活動の様々な場面で生徒の主体性が発揮され，外部審査員からも高く評価された。 ○最終学年の４年生11名が事故や長期欠席等もなく，全員無事に卒業および閉課程を迎えることができる。学校が居場所になりえていることの証左であると評価できる。
			面談等により、それぞれの生徒に応じた学習の仕方や進め方を適宜アドバイスする。	B			
			基礎基本の充実を図るため、考査前後に個別指導を適宜行う。	A			
		新しい学びの形を積極的に取り入れ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し進路を切り拓く資質や能力を育成する。	個や集団の実態に応じ、指導法の工夫・適切な支援を行う。	A	A		
			主体的で対話的で深い学びに導く授業改善に取り組む。	A			
			新学習指導要領をふまえた新しい教育の知見・スキルを学ぶ定期的な職員研修を進める。	A			
		閉課程に向け有終の美を飾れるよう、個々の生徒に応じた定時制ならではの協働性と探究心を養う。	「総合的な探究（学習）の時間」や閉課程行事について、生徒主体のチーム作りを推進する。	A	A		
			個々の授業における多角的な評価を取り入れた指導と評価の一体化を進める。	A			
			体験的な学習活動や、地域との連携のための外部人材を積極的に活用する。	A			
	庶務研修部	人権感覚に基づいた、学校生活・学習活動・進路実現を推進する。	「人権・同和教育」の指導計画の充実を図り、理解を深める年２回の特設授業を生徒に提供する。	A	A	A	○様々な場面での指導を通して生徒が自分自身で表現できる力をつけ、コミュニケーション能力を向上させることができていた。 ○「いじめ防止対策委員会」「教育相談委員会」や「特別支援委員会」などで教職員相互の生徒理解が得られ、差別事象や不登校などを未然に防ぐことができた。 ○全日制課程との合同研修会などを通して、人権やＩＣＴ活用への意識向上や認識の深化に繋げることができた。 ○「切り絵講座」を行わなかったため、地域との交流はできなかったが、代わりに様々な高校や全日制課程との交流を行い、生徒の活動意欲や愛校心は高めることができた。
			授業・HR・行事を通して、社会生活に適応したコミュニケーション能力を育成する。	A			
			「人権・同和教育推進委員会」を中心に、生徒理解を深め、差別事象防止の徹底を図る。	A			
		職員の研修意欲の向上を図り、ニーズに答えた校内研修を実施する。	教職員の人権感覚の推進・対応技術向上のために、年１回以上の校外研修参加を全職員に呼びかける。	B	A		
			教務部との連携により、教員相互の「授業参観期間」を１週間実施し、授業スキルの向上を図る。	A			
			校内研修の内容を充実させるため、年３回の全日制課程との合同研修会を提供する。	A			
		生徒が少人数であることを活かして、地域と結ばれた活動を行い、地域貢献や愛校心の意識を養う。	「匠の技」講座等で、地域の人達２０人を目標に交流を図り、生徒の活動意欲を高める。	B	A		
			交流を通して地域への愛着や生徒相互の絆を深め、閉課程に向けて愛校心を培う。	A			
			生徒のアルバイト先や関係団体との連携を深め、生徒理解の一助とする。	A			

学校関係者評価

評　価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	学校の評価は全項目適切である。生徒が4年間の出席率が91．4パーセントであり、生徒一人ひとりが高校生活を充実させている様子が見られた。閉課程に向けて最後の学年になるが、4年間しっかりと生徒を育ててもらったと感謝している。
A	学校の評価は全項目適切である。定時制の閉課程に向け、最後まで教育活動の充実に尽力いただき、感謝している。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
進路部		卒業後、自ら人生を切り拓くことができるよう、主体的判断の機会を多く設ける。	始業式・終業式等の講話を通して、職業観・勤労観を育成する。	A	A	A	○就業率は82％（昨年度81％、一昨年度74％）であり、今年度目標の70％を上回った。2名が就業未経験であるが、無理に就業を勧めずに、SC・SSWとの連携や面談を通して、状況を見ながら指導を行った。 ○12月末での就職希望者の就職率は75％（昨年度100％）であった。残る1名も現在応募準備中である。ハローワークとの連携により、個に応じた情報提供を行うことで、就職内定に繋げることができた。 ○３回のキャリア教育講演会と２回の社会人講話を実施し、卒業後の自立に向けて、職業人としての正しい認識や意識を醸成することができた。	A	学校の評価は全項目適切である。生徒一人ひとりの進路実現に向けて、最後まで教育活動の充実に尽力いただき、感謝している。
			在校生の就労経験推進のために、ハローワーク等と連携を強化する。	A					
			応募前企業見学やオープンキャンパス参加を通して、進路選択の自己決定を促す。	A					
		外部講師による進路講演会等を通じて、進路選択に対する動機づけを行う。	外部講師による進路講話を年に３回実施し、進路意識の涵養及び基礎的知識の習得をはかる。	A	A				
			就労経験が修学意欲の向上と進路実現に結びつくよう意識改革をはかる。	A					
			卒業生・在校生の職場訪問を実施し、働く生徒の勤務状況を把握する。	A					
		卒業予定者全員の進路実現をはかる。	上級学校情報並びに企業・求人情報を提供し、早期の受験を促す。	A	A				
			必要に応じて家庭訪問や保護者面談を実施し、保護者の理解・協力の促進をはかる。	A					
			面接指導や一般教養対策を実施し、最後まであきらめずに受験をさせる。	A					
生徒部	生徒指導部	互いを尊重しあう良好な人間関係を築かせ、いじめのない学校づくりを推進する。	生徒への挨拶・声かけを日常的に行い、生徒状況の把握をする。	A	A	A	○毎月の学校生活アンケートと隔月のいじめアンケートを実施し、いじめ防止対策委員会・教育相談委員会（毎月）においてアンケート結果や気になる生徒の情報を共有することで、いじめの未然防止に努めた。 ○学校行事等は、コロナ対策を実施しながら、予定していた行事をすべて実施することができ、有意義な教育活動となった。 ○今年度は４年生１１名のみであったため、生徒会行事をどう盛り上げていくか、行事の精選も含め課題であったが、会長・副会長に加えて執行委員5名を中心に、すべての行事において充実感を得ることができた。	A	学校の評価は全項目適切である。少人数にも関わらず、学校行事を生徒主体で企画するなど、最後まで教育活動の充実に尽力いただき、感謝している。
			学校生活アンケート・いじめアンケートの結果を全職員で共有し、未然防止と早期発見に努める。	A					
			生徒情報の共有化を日常的に行い、ＳＣやＳＳＷ、関係機関等と連携する。	A					
		集団の中でルールやマナーを守ることや他者を思いやることの大切さを説く。	ルールやマナーを守ること、他者を思いやることの大切さをあらゆる機会を捉えて指導する。	A	A				
			外部講師を招いての講演会にて、道徳及び規範意識教育をより推進する。	A					
			ＨＲ活動や全校集会等で人間関係の構築や礼儀について継続的に指導する。	A					
		学校行事の内容充実を図るとともに、集団としての一体感や帰属意識を育む。	各行事の円滑な実施に向けて、早期の計画・立案に努める。	A	A				
			生徒会活動の活発化と行事等における生徒の主体的参加を支援する。	A					
			在籍数１１ではあるが、個性を発揮させながら学校生活の活性化を目指す。	A					
	保健部	生涯に通じる健康観の確立と自己管理能力の定着を図る。	身体測定・健康診断の結果に基づき、治療勧告を行う。	A	A	A	○月１回いじめ防止対策委員会・教育相談委員会と、必要に応じて生徒の情報を共有しリアルタイムでの支援に活用できた。 ○数名の体調不良者がいたが、継続した感染症対策を実施しながら、通常の日常生活・学校行事を終えることができ、生徒たちの満足度・経験値を向上することができた。 ○担任の協力のもと、効果的なSC・SSWの活用ができた。 ○筑後地区保健会生徒保健委員会の行事にすべて積極的に参加し、他校との交流を深めることができた。 ○給食調理員さんたちへの挨拶、マナー、リクエストメニューの実施等充実した給食を実施することができた。	A	学校の評価は全項目適切である。健康面での細かな指導や対応を通して、生徒が安全・健康に学校生活を送れるように尽力いただき、感謝している。
			社会の情勢に注視しながら、基本的な感染防止対策の正しい情報を見抜く力を養う。	A					
			「性の教育講演会」を通し、生涯にわたっての「性の健康」を考えさせる。	A					
		教育相談及び、心の健康相談の充実を図り、安心安全で楽しい学校環境を作る。	生徒のSOSに気づき、迅速な情報共有・支援を行う。	A	A				
			教育相談や、心の健康相談を充実させ、心身ともに生徒が健康な生活を送れるように支援する。	A					
			生徒が抱える悩みや情報を見落とさないように、担任・SC・SSWとの連携を強化し支援に当たる。	A					
		生徒保健委員会活動の充実を図る。	生徒保健委員会による研究成果を、定期的に掲示・公開する。	A	A				
			「食育」に関する取り組みとして「リクエストメニュー」を集約する。	A					
			定時制生徒保健委員施設見学・研究発表会を通して、他校との交流を深める。	A					

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学年部	第１学年								
	第２学年								
	第３学年								
	第４学年	進路の実現とともに、主体性の喚起と自主・自律の精神を涵養する。	仕事との両立をはかり、基本的生活パターンの意識づけを行う。	A	A	A	○生徒11名のうち８名が合格・採用内定を決めている（内訳は，大学１名，専門学校２名，職業訓練校１名，各種学校１名，就職３名）。残る３名（大学一般入試受験の１名と採用応募予定の２名）も活動継続中である。応募前職場見学やオープンキャンパスへの参加を積極的に進め，主体的な進路活動を実行できた。 ○他校生も参加した閉課程記念「哲学カフェ」をはじめ，外部審査員を招聘した「総合的な探究の時間」最終発表などを協働的に実践した。 ○大きな病気やけがもなく11名全員がさしたる欠席もなく，無事に卒業式・閉課程式を迎らえれそうである。最終学年の１年を立派にやりおおせたと評価できる。	A	学校の評価は全項目適切である。クラスの生徒間の人間関係を豊かにする工夫が見られ、最後まで教育活動の充実に尽力いただき、感謝している。
			個人面談を密に行い、進路決定を自主的に行えるようきめ細やかな指導を行う。	A					
			学び方やものごとの考え方を身につけ、積極的にアウトプットする機会を設定する。	A					
		励まし認め合う、協働性を発揮するチーム作りを行う。	閉課程行事を通して、生徒どうしが励まし合いながら協同して活躍できる場を設定する。	A	A				
			他者の意見を傾聴し、承認し、疑問があれば質問で返す習慣をつくる。	B					
			職業を通した社会貢献の意義の理解と、公共的なことがらに参画する機会を設定する。	A					
		閉課程諸行事を機会に、自己肯定感・自己有用感の伸長と、役割を通した居場所の確保に努める。	４年次の諸活動を通して、「やればできる」実感を持てるように成功体験を積む。	A	A				
			クラスでの役割分担が有機的に機能し、お互いに認め合う習慣をつくる。	A					
			学ぶ楽しさを実感する場面を増やし、出席率80％以上の継続と持続性をはかる。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 授業におけるICT機器の利活用を推進し、生徒の学習意欲を高める授業を展開する。
- 生徒が自信と誇りを持って卒業を迎えられるような、学校行事の充実を図る。
- 生徒の進路意識を高めるために、面談や進路講演会を計画し、生徒一人ひとりの第１希望進路を実現させる。
- ハローワークと連携し、就労体験を推進するなど、働きながら学ぶ定時制生徒を育成する。
- 必要に応じて個人面談や家庭訪問を実施し生徒理解を深めるなど、どの生徒も取り残さない、安心して学べる学校づくりを推進する。

評価項目以外のものに関する意見

定時制の閉課程に向けて、生徒一人ひとりへの丁寧な対応の成果が出席率などにも表れており、引き続き最後までフォローをお願いする。